

奈良市きたまち転害門観光案内所の開所について

奈良市は、きたまちの観光振興を図っていくため、世界遺産東大寺転害門に隣接し、旧京街道（国道369号）に面した奈良市手貝町に、「奈良市きたまち転害門観光案内所」を開所することといたしました。

この案内所の建物は、昭和15年に南都銀行手貝支店として建築されました。近代建築家である岩崎平太郎氏により設計され、町家の形態を遺した近代建築として貴重なものです。

この案内所では、昨年7月に開所した「奈良市きたまち鍋屋観光案内所（旧鍋屋交番 きたまち案内所）」と連携しながら、東大寺転害門や正倉院などの世界遺産や歴史的な町並みに加え、きたまち地域の近代遺産などの奈良の新たな魅力を結び付けていく、きたまち観光の拠点として活用を目指しています。

なお、案内所の運営は、地元住民の皆さまや地域活動団体、観光ボランティア団体との協働によって行います。地域の観光案内や観光資源の発掘に加えて、地域のまちづくりなどを実践し、きたまち地域全体の活性化を目指していきます。

[施設概要]

名 称	奈良市きたまち転害門観光案内所
所 在 地	奈良市手貝町 54 番地の 1
構 造 等	木造二階建
敷地面積	212.79 m ²
延床面積	157.37 m ²
施設内容	観光案内スペース、和室

[開所時間]

10:00 ~ 16:00

[休所日]

- ・毎週木曜日
その日が休日の場合は、直後の休日でない日
- ・休日の翌々日
その日が、日曜日、土曜日及び休日を除く
- ・12月27日～1月5日

[アクセス]

奈良交通手貝町バス停下車すぐ

[開所式典]

日 時 平成 2 5 年 5 月 2 5 日 (土) 午前 1 0 時から
主 催 奈良市、転害門前旧銀行跡建物活用協議会
場 所 奈良市手貝町 5 4 番地の 1
奈良市きたまち転害門観光案内所

[案内所の連絡先]

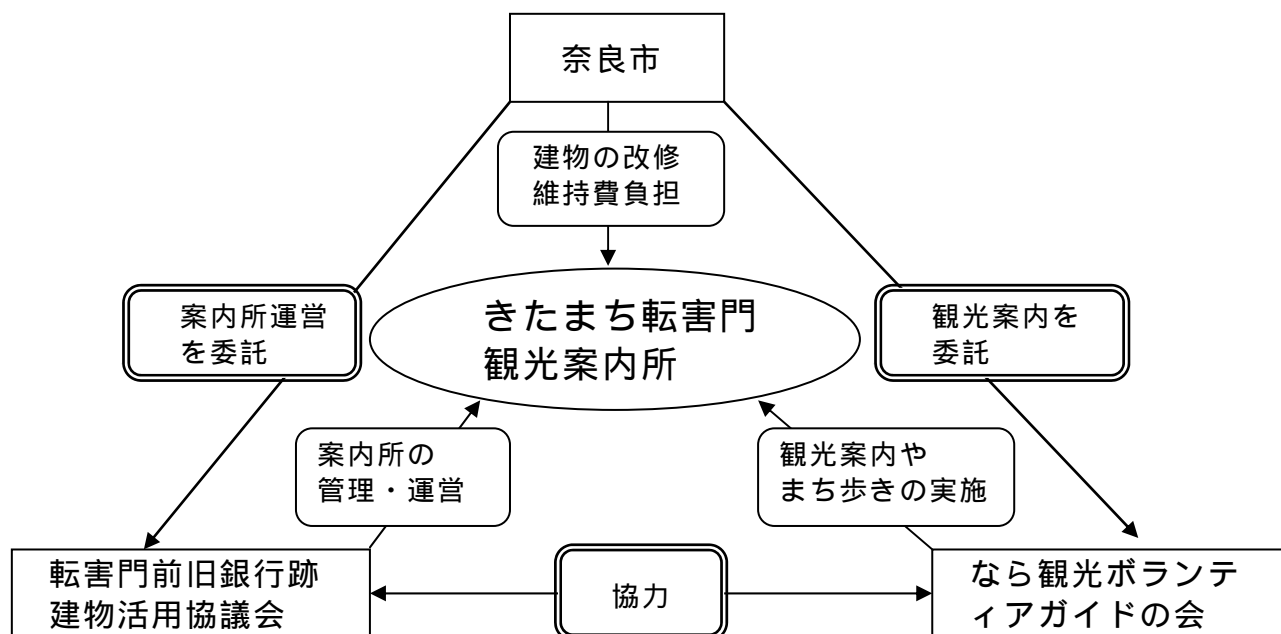
T E L 0 7 4 2 - 2 4 - 1 9 4 0 (F A X 共通)

南都銀行旧手貝支店が建築された年、1940(昭和15)年にちなんでいます。

[運営方法]

奈良市から転害門前旧銀行跡建物活用協議会(会長:田辺和夫)に案内所の運営を委託するとともに、NPO法人なら観光ボランティアガイドの会に観光案内を委託して、案内所を運営します。

転害門前旧銀行跡建物活用協議会は、奈良市きたまち転害門観光案内所を観光案内拠点、地域交流拠点として活用し、地域の活性化を目指すものとして結成された団体です。自治会、まちづくり団体、NPOなど、きたまち地域のまちづくりに関わるメンバーから構成されています。



建物の概要及び沿革について

(「世界遺産東大寺転害門に隣接する町家活用基本構想報告書」より作成)

1. 建物の概要

当該建物は世界遺産東大寺転害門（国宝）に隣接し、旧京街道に面して建設された木造2階建て、延べ床面積223㎡の和瓦葺きの建物であった。

建設年は昭和15年で、南都銀行旧手貝支店として計画され、近代建築の巨匠、武田五一の木造部門を補佐し、奈良建築界の第一人者であった岩崎平太郎の設計によるものである。岩崎平太郎は奈良県における建築設計業の創始者と位置づけられる人物であり、近年、その業績の再評価と遺された作品群の調査が行われている。

当該建物は京街道に面した主屋と奥の附属屋（宿直室・小使室・便所等）からなる。主屋は4間半四方で、正面、側面とも庇が回り、本2階建てに見えるが、じっさいの内部は吹抜となっていて平屋の建物である。室内は営業室、客だまり、応接室からなり、営業室と客だまり間はカウンターで仕切られていた。営業室も2Mほどの高さの間仕切を壁をたてまわして仕切るが、上部は吹き抜けていて、5Mの高さで格天井が張られていた。柱が省略され、広々とした印象の室内であったと思われる。

表構えは、一般の町家と異なり正面中央間に両開きガラス戸を吊り、対称形になっている点が特徴的である。銀行としてモニュメンタルな意匠を意図したものであろう。また、腰板壁と金属パイプの格子で構成されるが、正面の腰板をささら子下見板張り、南側側面を縦板張りとしていることにも、設計の細やかさが感じられる。大屋根軒下はセガイ造風に納め、庇では、岩崎平太郎独特の繰り形が見られる。小屋組はトラスを組み、両妻は和小屋とする。主屋の柱を省略するための工夫であろう。奥に坪庭を設け、これに面する部分を板張りとするなど、奈良の伝統的な町家の空間構成を生かそうとする意図も感じられる。附属屋は、南側を正面とし、中央に玄関を設け、その両側に宿直室、小使室を配する。簡素なつくりの建物である。

当該建物は、国宝転害門の隣接であることを意識し、また京街道沿いの街並みとの調和も考えて、伝統的な町家の基本的形態を踏襲しながら、諸処に銀行らしいモニュメンタルな意匠の工夫がみられる。

2. 南都銀行手貝支店の沿革

明治30年11月5日	奈良銀行北支店として奈良県添上郡奈良町大字手貝第1番屋敷に開設
明治31年2月1日	市制施行により所在地が奈良市大字手貝第1番屋敷となる
明治33年12月28日	町名制採用により所在地が奈良市手貝町49番屋敷となる。
大正7年10月5日	買収合併により六十八銀行奈良北支店となる
昭和2年12月26日	買収合併により六十八銀行奈良北支店となる
昭和9年6月1日	合併により南都銀行手貝支店となる。同時に所在地を奈良市手貝町54番地と変更
昭和15年12月1日	店舗新築（岩崎設計事務所が設計）

参考資料

昭和47年3月21日

奈良市今小路町43番地の4へ新築移転、この時に、南都銀行旧手貝支店跡建物は、個人の所有となり、病院の看護婦寮、理髪店などとして利用された。